

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|------------------------|------------|----------|
| 事業所番号 | 2390500342 | | |
| 法人名 | みなと医療生活協同組合 | | |
| 事業所名 | 高齢者グループホームかめじま(つるユニット) | | |
| 所在地 | 名古屋市東区中村区亀島一丁目5-30-1 | | |
| 自己評価作成日 | 令和4年11月14日 | 評価結果市町村受理日 | 令和5年2月3日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaijokensaku.nhw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=2390500342-00&PrefCd=23&VersionCd=022 |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|---------------------|--|--|
| 評価機関名 | 株式会社第三者評価機構 愛知評価調査室 | | |
| 所在地 | 愛知県新城市黒田字大岡132番地2 | | |
| 訪問調査日 | 令和4年12月5日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

生協の事業所として地域の組合員さんの協力や、敷地内の他事業所の職員等とも連携しながら事業所の運営をしている。
ご本人はもちろんご家族とのつながりも大切にし、家庭的で笑顔のある温かい雰囲気の中で生活できるように心がけている。季節ごとの行事にも力を入れており、入居者様とともに取り組めるようにしている。
また、入居者様の普段の様子をお伝えするため、毎月それぞれ担当を決めて個別に家族に向けて写真入りの手紙を送っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

複合型施設として7階建の建物の2階に当事業所はあります。4階にあるサービス高齢者住宅のスペースに洗濯エリアがあるため、運動がてら利用者とお出かけるのが日課で、コロナ禍ながらも近所づきあいが叶っています。また四半期に1度は陶芸の展示会やシャンソンの発表会が施設1階で開催されており、利用者のプチお出かけの機会もあります。開設1年目はベースづくりとして、まずは「職員が定着してきていること」があり、「家族からの信頼に手応えがある」「職員間で思いを言い合える」事も育まれ、備蓄の試食会などできることを着実に取組む様子に好感が持たれます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|----|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 「自立した生活が困難でも家庭的な環境と地域住民との交流のもとで、可能な限り個々の有する能力に応じ、落ち着いて、安らぎのある、いきいきとした生活が過ごせる」の理念を掲示し、実践できるようにしている。 | 理念は認知症対応型生活介護にふさわしい内容で親しみやすく、浸透しやすいであろうことが視えます。事務所や廊下には理念を掲示し、勉強会などで一言発信して意識を高めています。 | 理念に基づいた年間目標があり、四半期で振り返りがあると、さらに推進が期待できます。 |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 敷地内に学区が運営するふれあいセンターやみなと医療生協の組合員の活動の場所があり2022.10に認知症カフェが始まりました。コロナ禍でなかなか交流ができなく、まだ参加するまでには至っていませんが、イベント等には利用者と一緒に参加している。 | 複合型施設の中にあり、4階にあるサービス高齢者住宅に設置の洗濯エリアには運動がてら利用者と出かけるのが日課になっていて、4階の皆さんとは隣近所の付き合いを続けています。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | みなと医療生協として認知症カフェを立ち上げ、認知症の学習会も開催している。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | コロナ感染が広がったことにより文書による開催となったが、ご家族様や医師などよりご意見、ご要望をいただきサービスに反映できるようにしている。 | 運営推進会議は内部で2ヶ月分の活動状況をまとめてメンバーに届ける方法を代替として、新型コロナウイルス対策を第一としています。協力医や訪問看護師もメンバーであり、貴重な話し合いの場として再開が待たれます。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | コロナ禍で行き来出来ないの、書面にて報告や連絡をしている。 | 名古屋市からはマスクが届くほか、PCR検査キット、抗原セットも定期で届いています。地域包括支援センターからは運営推進会議への意見と伴に、空き情報について問い合わせがありますが、満床が続いており期待に応えることは叶っていません。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束適正化の学習会を開催して職員へ周知したり、身体拘束にあたる行為について学習会を重ねて、職員全員で身体拘束しないケアを考えている。 | 四半期の委員会をつつがなく開催するとともに、協議内容も少しずつ高まりを見せており、「これって虐待なんじゃない？」といったグレーゾーンへの意見も出てくるようになっていきます。更に委員会でテスト問題を作成するとのでトライもみられます。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 高齢者虐待防止の学習会を開催したり、職員に虐待に対する意識調査を行ったり、さらに個別指導等もしている。 | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 成年後見制度についての学習会を開催した。現在1名裁判所に申し立てを開始するところで、ご親族に協力している。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 対応できている。項目ごとに説明し、疑問・質問の確認をしている。介護報酬改定時なども説明している。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | みなと医療生協として各事業所に「虹の箱」というご意見を設置し、組合員で構成された事業所利用委員会により各事業所へ連絡、検討結果を公表する仕組みがある。 | 面会のときを活用して、介護保険の負担についてや衣替えのことを家族と話し合っています。「何でも言ってください」と呼びかけていますが、「便りの改良を～」との意見以降、特に挙がってはいません。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 全体会議の際に、職員からの意見等聴取しており、法人本部へ報告している。 | 折り紙や手芸用品等のレクの購入希望が主で、運営への意見は余り入ってきませんが、管理者とリーダーが中心となって毎月の全体会議を円滑に進めており、シフト上やむを得ず欠席した職員にも周知されるよう図っています。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 法人本部へ勤務状況等は毎月報告し問題があればその都度相談している。勤務環境や条件の整備も法人全体として取り組んでいる。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 少しずつZOOMでの講習会などに参加している。講習会を受け、学んだことを業務に活かすようにしている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | みなと医療生協として介護事業所全体での会議を開催しており、情報交換している。また医療福祉生協連の介護事業所研修に参加して、他法人とのネットワークを構築している段階。 | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|-----|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入居前の面談や入居後にご本人としっかりコミュニケーションをとるようにし、困りごとや不安・要望などが表出できるように心がけている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 入居相談の時点から、ご家族の困りごとや不安などを引き出せるように心がけている。ご要望に関しても、できるだけにかかわらずまずは受け止める姿勢で伺うようにしている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 入居時にご本人、ご家族との面談を通じ管理者やケアマネージャーが中心となりどのような支援が必要か判断している。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 介護する意識が高く、入居者様を人生の先輩として共に暮らす者としてかかわれるよう会議等で意識付けをしています。生活を共にする者同士の関係になれる様に日課を考えています。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | ご本人にとってもご家族が一番という方が多いので、ご家族からの支援も可能な範囲でお願いしている。また、面会時や電話連絡時にはご家族の心情や意向をくみ取りながら情報共有するよう努めている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | コロナ禍で思うようにできていない。できることがないか検討しているところ。ご家族との関係も制限する部分もある為、毎月のお便りに日常の様子を写真にして、できることもできなくなったこともありのままをお伝えしている。 | 洋裁をやっていた人はミシンを持ち込みましたが認知症の進行に困り現在は手縫いとなり、それもやや安定に欠くものの雑巾などを作ってくださいています。また90歳をこえて糸を通すことができる人の存在は感嘆を呼び、弾んだ空気が生れています。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 利用者同士でできた関係性を考慮し、他者との交流も苦手な方は手伝いながら係わって共に生活する社会ができるように努めている。 | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | なかなか利用終了した後、時間が経つほどに相談や支援することができないが、出来る事があれば支援していきたい。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 入居時には、ご本人やご家族より希望や意向をうかがっている。また、入居後はご本人とゆっくり話をして希望や意向を把握できるようにしている。 | 少しの変化でも気づく個別の支援が利用者の笑顔に実ることを体験を通して職員は学んでおり、「食器を洗いたい」「お米を研ぐことが好き」と、利用者一人ひとりが好きなことがあり、取り組めるよう会議記録なども活かして支援しています。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 入居時ご家族にこれまでの生活歴や利用してきたサービスを記入してもらい、経過を確認している。また、それをもとにご本人への聞き取りをしている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 日々変化することもあるが、申し送りやカンファレンス等にて情報共有している。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 計画作成担当が中心となり、まずはご本人やご家族との話し合いから介護計画の原案を作成し、その他の職員と相談して決定している。必要時には看護師等の意見も取り入れている。 | カンファレンスとしては実施していませんが、計画作成担当者が日常の中で職員から現状を聞きとっています。家族や利用者、職員からの聴取を元に介護計画書を作成する中で、医療従事者など専門職の意見も反映させています。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 個別記録に対しては気になることや起こったことを記入するようにし、介護計画の見直しに活かしているが、実践への反映はできていないこともある。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 医療生協の事業所として、他の介護事業所や医療との連携だけでなく、地域の組合員さんと協力しどんなことができるか検討中。 | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | コロナ禍でなかなか交流できないことが多く、地域資源との協働も難しい現状がある。地域の組合員さんや学区の方々とのつながりを維持し、感染予防対策をとり、可能な交流の場を大切にしている。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 同医療生協の診療所をかかりつけ医とし、必要に応じて同医療生協の病院でも受診できるよう連携をとっている。また、ご本人やご家族の希望に合わせて他の医療機関への受診の支援もしている。 | 月2回訪問診療が定期実施されています。また訪問看護師も診療日程に合わせて立ちあってくださり、安心の医療体制にあります。また管理者も同席のうえ、電子上と紙ベースそれぞれに記録を残しています。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 管理者と計画作成担当者が看護師で、気になることは相談している。必要に応じては同医療生協の病院内医療連携室や往診先診療所の看護師とも相談している。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている | 法人内病院や診療所とは普段から連絡をとり、受診や入院の相談をしており、連携がとれている。入居者様のかかりつけ病院(法人外)への受診や入院時にも情報共有ができるように努めている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 入所時に重度化した場合や終末期をどう過ごしたいかの意向を聞いている。事業者でできることも説明し、往診医とも相談して、家族と医師と事業所の3者での話し合いや相談もしている。 | 開設したばかりで現状は事業所内での看取りは無理があるものの、家族には契約時に終末期における「事業所でできること、できないこと」を説明のうえ、また「お考えが変わったらいつでも対応します」と伝えつつ、意向アンケートをとっています。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 勉強会を開催したり、緊急時のフローチャートを事務所に貼り出したりしている。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 年に2回の消防訓練の際に災害時の避難訓練も行っている。同敷地に学区のふれあいセンターがあり、合同での避難訓練等を予定しているが、コロナ禍で事業者ごとに行っている。9月には目標に掲げていた備蓄食品の試食会も開催した。 | 3月と9月に訓練をおこなうことは年間計画にも位置づけ、欠かさず実施しています。火災からの通報と避難のほか、お米と一体化したカレー(水を加える)の試食も本年度は体験でき有意義な取り組みとなりました。 | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 人格の尊重とプライバシー保護について学習会を行い、職員への意識付けを繰り返している。 | 概ね穏やかに優しく対応する職員集団ですが、自意識が強い利用者には更に配慮しており、対応方法も職員間で共有しています。また不適切ケアについても「それはだめだよ」と相互に言い合える関係を築けています。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | ケアの折々の会話の際に、ご本人の気持ちが聞けるように、職員は意識するようになっている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 健康上問題なく、事故やけがにつながらない範囲で、できるだけ個々のペースに合わせて1日過ごしていただくようになっている。ただし、こちらから誘って過ごしていただくこともある。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | ご本人の意向を確認し、ご家族にも協力してもらいながら、着るものや整容の支援をしている。こだわりがある方には無理強いにならないよう見守ったり、時にはマニキュアを塗るなどみんなで楽しむこともある。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 食べることは楽しみなので、準備・作ること・食べること・片付けはその時の調子にもよるが、得意なことを主体で行うような支援をしている。 | 1名刻み食の利用者がいますが、食べることを大いに楽しむ人が多く、職員も力が入るケアサービスの一つです。必要なときに利用するのみの訪問歯科ですが、先生が快く無料検診をおこなってくださり、人気の手巻き寿司も全員が海苔で大丈夫です。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 1日を通じた栄養バランスを考え、摂取量は注意して支援しているが、もともと水分量の少ない習慣だった方には、少しずつ1日量を増やしてもらえよう嗜好品や提供方法を考えている。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 習慣がなかった方は毎食後のケアはできないときもあるが、毎食後声掛けをし、必要に応じて歯磨きや義歯洗浄の支援をしている。歯科医師からの指示によりケアを行うこともある。 | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | どのかたもトイレに座っていただくようにしている。放尿や失禁が続くときは排泄パターンを見つけられるよう情報共有しながら検討している。 | 布ばんつが4名と比較的排泄は軽度ですが、安心にのたためにリハパンにしたいという人もいて、状態だけでなく気持ちの面での選択もあります。またパットも本人の意向と状況を検討して、ベストマッチに近づけるべく提供しています。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 排便コントロールの重要性は認識しており、散歩や体操などの運動や飲水・食事からの水分量は毎日気を付けている。食事からも食物繊維や乳酸菌がとれるように意識している。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 入浴の拒否のある方もいるため、週に2回は入浴できるように曜日は決めているが、ご本人の気分がのらないときは無理せず別の日に入れるよう支援している。入浴剤などで楽しんでいただけるようにしてお誘いすることもある。 | 1名拘縮がある利用者もおり、また自身の垢を湯船に浮かして「退治した」と遊ぶのが趣味の人、「午前はイヤ」など様々な状態や意向に応えるとともに多様な色の浴剤を揃え、満足のゆく入浴タイムを用意しています。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 気分のすぐれないときは休息して頂いたり、環境整備や安全を配慮し就寝していただいている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | お薬手帳や薬のしおりがいつでも最新の情報で見られるようにしてあり、下剤などの調整の指示があるものは別包にして管理しているので、看護師に確認しながら服薬支援をしている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | ストレスにならない程度の役割を見つけることは難しいこともあるが、好きなことをしながら、時には季節ごと行事を開催して楽しんでいただいている。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している | コロナ禍で思うように外出はできていないが、運動のためにも裏の公園へ散歩に出かけるようにしている。タイミングが合えば保育園児たちの遊ぶ姿を微笑ましく見ることが出来る。 | 散歩に出ると、隣の保育園の園児が公園で遊ぶ姿を眺めて和んだり、時には保育士さんも交えて立ち話をしたりといった時間も持っています。また利用者の要望に応じて、短時間ながらもスーパーマーケットに出かけることもあります。 | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 現在、お金を使うところへ出かけることはできていないため支援できていない。今後、外出支援とともに買い物の支援ができるようにしていきたい。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 現在はご本人の希望があれば支援している状態。定期的にご親族と文通している方もいるが、すべての方ではないので、やり取りできる方が増えるような支援を考えている。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 共同空間で居心地の良さは共通ではないこともあるが、生活感や季節感を取り入れている。 | 換気は2～3時間に1回数分おこない、掃除には使い捨ての除菌シートを使い、衛生環境を高めています。壁には季節に沿った飾りを連ねることで視覚で春夏秋冬を感じてもらえるよう図っています。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 混乱を防ぐために所定の位置を決めているが、それ以外にも使用できる場所をいろいろ作り、心地よい過ごし方ができるよう工夫している。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 使い慣れた家財道具をお願いしているが、新しく備えられるご家族もいるため、家族写真やお好きなもので居心地が良いと感じられるようにしている。 | 各自の居室は一つの家として、入居時には家族にも配置などを考えてもらっています。また表札はありませんが、我が家と本人が判るよう目印がそれぞれに配されてもいます。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 手すりの設置や車いすでも利用できる洗面等があり誰でも安全に生活できるような工夫がされている。また、居室の目印はそれぞれに合わせて作成したり、トイレ等もわかりやすく掲示している。 | | |

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|------------------------|------------|----------|
| 事業所番号 | 2390500342 | | |
| 法人名 | みなと医療生活協同組合 | | |
| 事業所名 | 高齢者グループホームかめじま(かめユニット) | | |
| 所在地 | 名古屋市中村区亀島一丁目5-30-1 | | |
| 自己評価作成日 | 令和4年11月14日 | 評価結果市町村受理日 | 令和5年2月3日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaijokensaku.nhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kami=true&JigyosyoCd=2390500342-00&PrefCd=22&VersionCd=022 |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|---------------------|--|--|
| 評価機関名 | 株式会社第三者評価機構 愛知評価調査室 | | |
| 所在地 | 愛知県新城市黒田字大岡132番地2 | | |
| 訪問調査日 | 令和4年12月5日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

生協の事業所として地域の組合員さんの協力や、敷地内の他事業所の職員等とも連携しながら事業所の運営をしている。
 ご本人はもちろんご家族とのつながりも大切にし、家庭的で笑顔のある温かい雰囲気です生活できるように心がけている。季節ごとの行事にも力を入れており、入居者様とともに取り組めるようにしている。
 また、入居者様の普段の様子をお伝えするため、毎月それぞれ担当を決めて個別に家族に向けて写真入りの手紙を送っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

複合型施設として7階建の建物の2階に当事業所はあります。4階にあるサービス高齢者住宅のスペースに洗濯エリアがあるため、運動がてら利用者とお出かけるのが日課で、コロナ禍ながらも近所づきあいが叶っています。また四半期に1度は陶芸の展示会やシャンソンの発表会が施設1階で開催されており、利用者のプチお出かけの機会もあります。開設1年目はベースづくりとして、まずは「職員が定着してきていること」があり、「家族からの信頼に手応えがある」「職員間で思いを言い合える」事も育まれ、備蓄の試食会などできることを着実に取組む様子に好感が持たれます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|---|--|--|--|
| 56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない | 63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない |
| 59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12) | ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-------------------|-----|---|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I.理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 「自立した生活が困難でも家庭的な環境と地域住民との交流のもとで、可能な限り個々の有する能力に応じ、落ち着いて、安らぎのある、いきいきとした生活が過ごせる」の理念を掲示し、実践できるようにしている。 | | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 敷地内に学区が運営するふれあいセンターやみなと医療生協の組合員の活動の場所があり2022.10に認知症カフェが始まりました。コロナ禍でなかなか交流ができなく、まだ参加するまでには至っていませんが、イベント等には利用者と一緒に参加している。 | | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | みなと医療生協として認知症カフェを立ち上げ、認知症の学習会も開催している。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | コロナ感染が広がったことにより文書による開催となったが、ご家族様や医師などよりご意見、ご要望をいただきサービスに反映させるようにしている。 | | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | コロナ禍で行き来出来ないの、書面にて報告や連絡をしている。 | | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束適正化の学習会を開催して職員へ周知したり、身体拘束にあたる行為について学習会を重ねて、職員全員で身体拘束しないケアを考えている。 | | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 高齢者虐待防止の学習会を開催したり、職員に虐待に対する意識調査を行ったり、さらに個別指導等もしている。 | | |

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 成年後見制度についての学習会を開催した。現在1名裁判所に申し立てを開始するところで、ご親族に協力している。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 対応できている。項目ごとに説明し、疑問・質問の確認をしている。介護報酬改定時なども説明している。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | みなと医療生協として各事業所に「虹の箱」というご意見を設置し、組合員で構成された事業所利用委員会により各事業所へ連絡、検討結果を公表する仕組みがある。 | | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 全体会議の際に、職員からの意見等聴取しており、法人本部へ報告している。 | | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 法人本部へ勤務状況等は毎月報告し問題があればその都度相談している。勤務環境や条件の整備も法人全体として取り組んでいる。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 少しずつZOOMでの講習会などに参加している。講習会を受け、学んだことを業務に活かすようにしている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | みなと医療生協として介護事業所全体での会議を開催しており、情報交換している。また医療福祉生協連の介護事業所研修に参加して、他法人とのネットワークを構築している段階。 | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|-----|--|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入居前の面談や入居後にご本人としっかりコミュニケーションをとるようにし、困りごとや不安・要望などが表出できるように心がけている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 入居相談の時点から、ご家族の困りごとや不安などを引き出せるように心がけている。ご要望に関しても、できるだけにかかわらずまずは受け止める姿勢で伺うようにしている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 入居時にご本人、ご家族との面談を通じ管理者やケアマネージャーが中心となりどのような支援が必要か判断している。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 介護する意識が高く、入居者様を人生の先輩として共に暮らす者としてかかわれるよう会議等で意識付けをしています。生活を共にする者同士の関係になれる様に日課を考えています。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | ご本人にとってもご家族が一番という方が多いので、ご家族からの支援も可能な範囲でお願いしている。また、面会時や電話連絡時にはご家族の心情や意向をくみ取りながら情報共有するよう努めている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | コロナ禍で思うようにできていない。できることがないか検討しているところ。ご家族との関係も制限する部分もある為、毎月のお便りに日常の様子を写真にして、できることもできなくなったこともありのままをお伝えしている。 | | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 利用者同士でできた関係性を考慮し、他者との交流も苦手な方は手伝いながら係わって共に生活する社会ができるように努めている。 | | |

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | なかなか利用終了した後、時間が経つほどに相談や支援することができないが、出来る事があれば支援していきたい。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 入居時には、ご本人やご家族より希望や意向をうかがっている。また、入居後はご本人とゆっくり話をして希望や意向を把握できるようにしている。 | | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 入居時ご家族にこれまでの生活歴や利用してきたサービスを記入してもらい、経過を確認している。また、それをもとにご本人への聞き取りをしている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 日々変化することもあるが、申し送りやカンファレンス等にて情報共有している。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 計画作成担当が中心となり、まずはご本人やご家族との話し合いから介護計画の原案を作成し、その他の職員と相談して決定している。必要時には看護師等の意見も取り入れている。 | | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 個別記録に対しては気になることや起こったことを記入するようにし、介護計画の見直しに活かしているが、実践への反映はできていないこともある。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 医療生協の事業所として、他の介護事業所や医療との連携だけでなく、地域の組合員さんと協力しどんなことができるか検討中。 | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | コロナ禍でなかなか交流できないことが多く、地域資源との協働も難しい現状がある。地域の組合員さんや学区の方々とのつながりを維持し、感染予防対策をとり、可能な交流の場を大切にしている。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 同医療生協の診療所をかかりつけ医とし、必要に応じて同医療生協の病院でも受診できるよう連携をとっている。また、ご本人やご家族の希望に合わせて他の医療機関への受診の支援もしている。 | | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 管理者と計画作成担当者が看護師で、気になることは相談している。必要に応じては同医療生協の病院内医療連携室や往診先診療所の看護師とも相談している。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている | 法人内病院や診療所とは普段から連絡をとり、受診や入院の相談をしており、連携がとれている。入居者様のかかりつけ病院(法人外)への受診や入院時にも情報共有ができるように努めている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 入所時に重度化した場合や終末期をどう過ごしたいかの意向を聞いている。事業者でできることも説明し、往診医とも相談して、家族と医師と事業所の3者での話し合いや相談もしている。 | | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 勉強会を開催したり、緊急時のフローチャートを事務所に貼り出したりしている。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 年に2回の消防訓練の際に災害時の避難訓練も行っている。同敷地に学区のふれあいセンターがあり、合同での避難訓練等を予定しているが、コロナ禍で事業者ごとに行っている。9月には目標に掲げていた備蓄食品の試食会も開催した。 | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 人格の尊重とプライバシー保護について学習会を行い、職員への意識付けを繰り返し行っている。 | | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | ケアの折々の会話の際に、ご本人の気持ちが聞けるように、職員は意識するようになっている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 健康上問題なく、事故やけがにつながらない範囲で、できるだけ個々のペースに合わせて1日過ごしていただくようになっている。ただし、こちらから誘って過ごしていただくこともある。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | ご本人の意向を確認し、ご家族にも協力してもらいながら、着るものや整容の支援をしている。こだわりがある方には無理強いにならないよう見守ったり、時にはマニキュアを塗るなどみんなで楽しむこともある。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている | 食べることは楽しみなので、準備・作ること・食べること・片付けはその時の調子にもよるが、得意なことを主体で行うような支援をしている。 | | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 1日を通じた栄養バランスを考え、摂取量は注意して支援しているが、もともと水分量の少ない習慣だった方には、少しずつ1日量を増やしてもらえよう嗜好品や提供方法を考えている。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 習慣がなかった方は毎食後のケアはできないときもあるが、毎食後声掛けをし、必要に応じて歯磨きや義歯洗浄の支援をしている。歯科医師からの指示によりケアを行うこともある。 | | |

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | どのかたもトイレに座っていただくようにしている。放尿や失禁が続くときは排泄パターンを見つけられるよう情報共有しながら検討している。 | | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 排便コントロールの重要性は認識しており、散歩や体操などの運動や飲水・食事からの水分量は毎日気を付けている。食事からも食物繊維や乳酸菌がとれるように意識している。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 入浴の拒否のある方もいるため、週に2回は入浴できるように曜日は決めているが、ご本人の気分がのらないときは無理せず別の日に入れるよう支援している。入浴剤などで楽しんでいただけるようにしてお誘いすることもある。 | | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 気分のすぐれないときは休息して頂いたり、環境整備や安全を配慮し就寝していただいている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | お薬手帳や薬のしおりがいつでも最新の情報で見られるようにしてあり、下剤などの調整の指示があるものは別包にして管理しているので、看護師に確認しながら服薬支援をしている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | ストレスにならない程度の役割を見つけることは難しいこともあるが、好きなことをしながら、時には季節ごと行事を開催して楽しんでいただいている。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している | コロナ禍で思うように外出はできていないが、運動のためにも裏の公園へ散歩に出かけるようにしている。タイミングが合えば保育園児たちの遊ぶ姿を微笑ましく見ることができる。 | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 現在、お金を使うところへ出かけることはできていないため支援できていない。今後、外出支援とともに買い物の支援ができるようにしていきたい。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 現在はご本人の希望があれば支援している状態。定期的にご親族と文通している方もいるが、すべての方ではないので、やり取りできる方が増えるような支援を考えている。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 共同空間で居心地の良さは共通ではないこともあるが、生活感や季節感を取り入れている。 | | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 混乱を防ぐために所定の位置を決めているが、それ以外にも使用できる場所をいろいろ作り、心地よい過ごし方ができるよう工夫している。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 使い慣れた家財道具をお願いしているが、新しく備えられるご家族もいるため、家族写真やお好きなもので居心地が良いと感じられるようにしている。 | | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 手すりの設置や車いすでも利用できる洗面等があり誰でも安全に生活できるような工夫がされている。また、居室の目印はそれぞれに合わせて作成したり、トイレ等もわかりやすく掲示している。 | | |